



茨城大学教授/常陸大宮市創生特別顧問 西野由希子

常陸大宮市と茨城大学が地域連携の協定を結んだのが2005年4月。それ以来、常陸大宮市内の様々な「まちづくり」の活動に、大学が協力・参加させていただくようになり、「まちづくり」に取り組む市民の皆さまとの出会いが広がっていきました。学生たちも熱心に取り組んでいましたので、そういう様子を知っていただけたらと思いますし、活動されている市民の皆さまが登場するコーナーがあると良いのではと考え、企画や広報の担当の皆さんに相談して2008年の10月号からスタートさせたのが「いっしょにまちづくり」のコーナーです。

学生たちは、本市での活動の際に「市報を見たよ」「載ってたね」と声をかけていただくようになり、それが大きな励みし、後押しになりました。また執筆や掲載が良い契機になり、それぞれのステップへ繋がったと思います。2010年からは「常陸大宮市まちづくりネットワーク」も動き始め、その後「協働のまちづくり指針」も策定され、本市のまちづくりはさらに活発に進められようとしています。今後もまちづくりに取り組む皆さんの笑顔が、このコーナーで繋がり、広がっていきますように願っています。



※1回目は2008年10月号に掲載

「まちづくりの経験を自らの仕事に」

笠間市役所 都市計画課 小室 仁子

以前掲載された時は、まだ大学生として実際のまちづくりを現場で経験しながら、地域の魅力を伝える方法を研究していました。

現在は笠間市の職員として、空き家対策や利活用の推進に従事し、学生時代の経験を活かしながら、移住者の受け入れ先として空き家を紹介する支援等を行っています。「いっしょにまちづくり」が8年もの間継続されたことは、それだけ多くの方が常陸大宮市のまちづくりに関わった証だと思いますし、地域を盛り上げようとする人が多くいるまちであることを、元市民として誇りに思います。



※1回目は2011年6月号に掲載



「深化するいっしょにまちづくり」

フロイデDAN 団長 寺門 貴

いっしょにまちづくりも8年目を迎え、多くの市民や団体の協力により、横断的な活動も増えている印象を受けます。そのような活動の末端で、私たち「フロイデDAN」の活動も6年目に突入しました。

その間、様々な人や団体の皆さまと共に活動することでネットワークの広がりを感ずることができました。少子高齢社会において、誰もが排除されないまちを実現するために、対話を通して活動していきたいと思っています。



「いっしょにまちづくり」
コーナーが始まって8年になりました！

執筆者は、まちづくりに取り組んでいる市民のみなさん、地域連携でいっしょに活動している茨城大学の学生・教員のみなさん、併せて90人以上になりました。これからも、笑顔とまちづくりの輪をつないでいきます！



※1回目は2010年5月号に掲載

「自分を成長させてくれたまちづくり」

常陸大宮市役所 税務徴収課 野上 敦司

学生として常陸大宮市まちづくり活動に携わってから6年が経過しました。学生として活動した際に実感した、何も分からない「よそ者」の自分たちを優しく迎え入れてくれた「地域の温かさ」が、常陸大宮市の職員として日々職務に励む上での私の道標です。今後は職員として、また一人の市民として自分が魅力に感じた地域のまちづくりに携わっていきたいと思っています。

